

編 修 趣 意 書

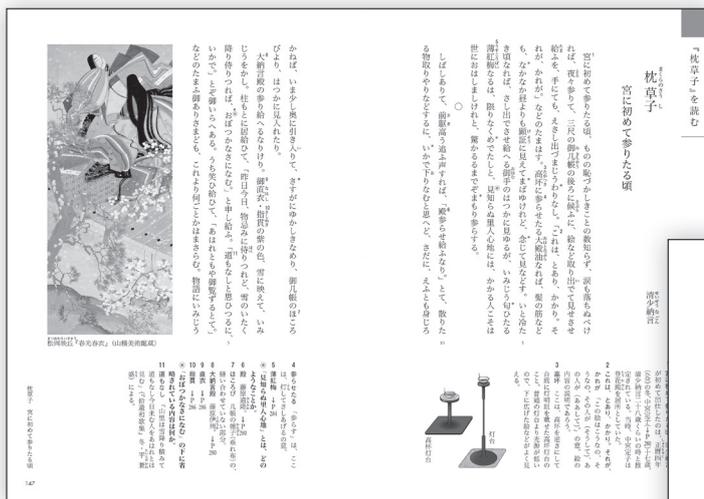
(教育基本法との対照表)

受理番号	学 校	教 科	種 目	学 年
28-15	高等学校	国語科	古典 B	
発行者の 番号・略称	教科書の 記号・番号	教 科 書 名		
17 教出	古 B 336 古 B 337	精選古典 B 古文編 精選古典 B 漢文編		

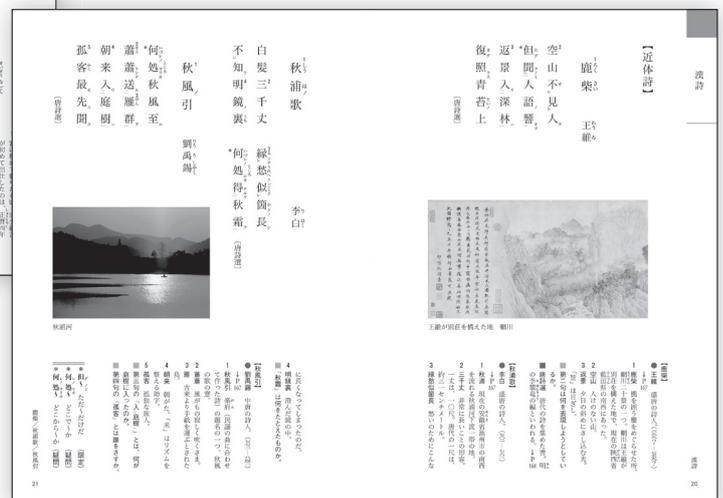
1. 編修の基本方針

本教科書は、教育基本法に示された「教育の目標（教育基本法第二条の第1～第5号）」を、学習活動を通じて実現できるように編修しました。すなわち、言語や文化についての幅広い知識や教養を身に付け、個人の能力を伸ばし、創造性を培い、自主及び自律の精神を養えるようにしました。同時に、生命を尊び、自然を大切に、主体的に社会の形成に参画する態度、伝統と文化を尊重する態度、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養えるようにしました。

編修にあたっては、小学校・中学校での古典学習、「国語総合」での古典学習との一貫性をはかるとともに、より一層の発展・深化を旨とした教材選択・配列を考え、古典としての古文と漢文を読む能力を養うことを目的としました。そして、わが国の文化・伝統の中に身をおき、古典の価値を再発見し、新しい価値を加えて次の世代へと読み継いでいくこと、また、生涯にわたって古典に親しむ読書人を育成することを願いました。



▲P146-147



▲P20-21

2. 対照表

図書の内容・構成と教育基本法第二条の第1号から第5号との対応を示します。

教育基本法第二条

- 〈第1号〉幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養い、豊かな情操と道徳心を培うとともに、健やかな身体を養うこと。
- 〈第2号〉個人の価値を尊重して、その能力を伸ばし、創造性を培い、自主及び自律の精神を養うとともに、職業及び生活との関連を重視し、勤労を重んずる態度を養うこと。
- 〈第3号〉正義と責任、男女の平等、自他の敬愛と協力を重んずるとともに、公共の精神に基づき、主体的に社会の形成に参画し、その発展に寄与する態度を養うこと。
- 〈第4号〉生命を尊び、自然を大切にし、環境の保全に寄与する態度を養うこと。
- 〈第5号〉伝統と文化を尊重し、それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛するとともに、他国を尊重し、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養うこと。

〈 〉内は小教材

図書の構成・内容	特に意を用いた点や特色	該当箇所
(古文編) 第一部		
説話 児の知恵 成方と名笛 〈盗賊〉 能は歌詠み 袴垂と保昌 〈動詞の活用〉	説話文学 を読むことにより、伝統と文化を尊重し、それをはぐくんできた我が国と郷土を愛する心を養います。(第5号)	P8-17
随筆 徒然草 家居のつきづきしく 人の亡きあとばかり 方丈記 行く川の流れ 〈無常観〉 枕草子 春はあけぼの 〈除目〉 〈形容詞・形容動詞の活用〉 明日香川の淵瀬 九月二十日の頃 養和の飢饉 日野山の閑居 すさまじきもの 中納言参り給ひて	三大随筆 を読むことにより、伝統と文化を尊重し、それをはぐくんできた我が国と郷土を愛する心を養います。また、 兼好・鴨長明・清少納言 の思想・感性を読むことにより、幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養い、豊かな情操を培います。(第1号、5号)	P18-39
歌物語 伊勢物語 初冠 関守 狩りの使ひ 大和物語 峰のもみぢ葉 姨捨山 〈垣間見〉 梓弓 目離れせぬ雪 後に会はむと 〈助動詞のはたらき(1)〉	歌物語『 伊勢物語 』と『 大和物語 』を読むことにより、伝統と文化を尊重し、それをはぐくんできた我が国と郷土を愛する心を養います。(第5号)	P40-55
日記 土佐日記 阿倍仲麻呂の歌 更級日記 東路の道の果て 継母との別れ 〈『源氏物語』の成立〉 〈古典文学に描かれた猫〉 〈助動詞のはたらき(2)〉 黒鳥のもと 竹芝寺 『源氏』の五十余巻 をかしげなる猫 後の頼み	平安時代の二つの 日記文学 を読むことにより、伝統と文化を尊重し、それをはぐくんできた我が国と郷土を愛する心を養います。また、『 源氏 』の 五十余巻 では、幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養います。(第1号、5号)	P56-75
作り物語 竹取物語 蓬萊の玉の枝 源氏物語 光源氏の誕生 堤中納言物語 虫愛づる姫君 若紫との出会ひ 〈助詞のはたらき〉	『 竹取物語 』、『 源氏物語 』の発端部分、そして『 堤中納言物語 』から『 虫愛づる姫君 』を読むことにより、伝統と文化を尊重し、それをはぐくんできた我が国と郷土を愛する心を養います。『 虫愛づる姫君 』では、生命を尊び、自然を大切にする態度を養います。(第4号、5号)	P76-91

図書構成・内容	特に意を用いた点や特色	該当箇所
和歌と歌謡 王朝の歌 梁塵秘抄 舞へ舞へ蝸牛	八代集と歌謡集 を読み、伝統と文化を尊重し、それをはぐくんできた我が国と郷土を愛する心を養います。自然賛歌を多く選び、自然を大切に、環境の保全に寄与する態度を養うよう配慮しました。(第4号, 5号)	P92-97
歴史物語 大鏡 雲林院の菩提講 花山天皇の出家 南院の競射 鶯宿梅 増鏡 宮内卿和歌のほまれ 鏡の袖 新島守 (敬語法)	二つの 歴史物語 を読み、幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養い、豊かな情操を培います。(第1号)	P98-113
軍記物語 平家物語 忠度都落ち 能登殿最期 建礼門院右京大夫集 面影ばかり (紛らわしい語の識別)	『平家物語』 と 『建礼門院右京大夫集』 を読み、伝統と文化を尊重し、それをはぐくんできた我が国と郷土を愛する心を養います。また、戦いをめぐる古代の人々の諸相を読むことにより、生命を尊ぶ態度を養います。(第4号, 5号)	P114-125
上代の文学 古事記 黄泉つひら坂 (桃の力) 万葉の歌	『古事記』『万葉集』 を読み、伝統と文化を尊重し、それらをはぐくんできたわが国と郷土を愛する態度を養います。(第5号)	P126-133
近世の文学 去来抄 行く春を 岩鼻や 銀河の序 (連歌から俳諧へ) 雨月物語 菊花の約 (近世小説)	俳諧評論と『雨月物語』 を読み、幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養い、豊かな情操を培います。また、正義と責任、自他の敬愛と協力を重んずる態度を養います。(第1号, 3号)	P134-144
(古文編) 第二部		
『枕草子』を読む 宮に初めて参りたる頃 (宮廷女房) 御方々、君達、上人など 無名といふ琵琶の御琴を 『古今』の草子を 大納言殿参り給ひて 二月つごもり頃に 殿などのおはしまさで後 この草子、目に見え、心に思ふことを (琴と笛)	三大随筆の一つ 『枕草子』 を読むことにより、伝統と文化を尊重し、それをはぐくんできた我が国と郷土を愛する心を養います。(第5号)	P146-167
『大鏡』を読む 道真左遷 師輔の夢 中宮安子の嫉妬 兼通と兼家の確執 若き日の道長 女院詮子の道長びいき 三船の才	前単元の 『枕草子』 と同時代の歴史書 『大鏡』 を読み、幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養い、豊かな情操を培います。(第1号)	P168-185
『日記』を読む 蜻蛉日記 嘆きつつ 鷹を放つ 紫式部日記 若宮誕生 日本紀の御局 和泉式部日記 帥の宮からの便り 帥の宮の訪れ 讃岐典侍日記 しるしの箱	平安時代の 日記文学 を読むことにより、伝統と文化を尊重し、それをはぐくんできた我が国と郷土を愛する心を養います。(第5号)	P186-199
『源氏物語』を読む——光源氏と女君—— 藤壺の宮の入内 夕顔の死 身のほどを知る空蟬 朧月夜との出會ひ 葵の上に取り憑く物の怪 明石の君の苦惱 女三の宮の降嫁 紫の上の死 (古典の扉 無名草子 女君評)	世界に誇る物語文学である 『源氏物語』 から 光源氏と女君 を中心に精選された章段を読み、伝統と文化を尊重し、それらをはぐくんできたわが国と郷土を愛する態度を養います。(第5号)	P200-229
評論を読む 古今和歌集仮名序 やまと歌 六歌仙評 俊頼髓脳 歌の、八つの病の中に 無名抄 俊成自讃歌のこと 毎月抄 心と言葉 正徹物語 一字の違ひ 三冊子 師の風雅 難波土産 虚実皮膜の論 源氏物語玉の小櫛 もののあはれ 玉勝間 兼好法師への批判 (古典の扉 徒然草 花は盛り)	中古から近世に至るさまざまな 評論 を読み、幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養い、豊かな情操を培います。(第1号)	P230-250
(漢文編) 第一部		
故事・逸話 漱石枕流 断腸画竜点睛 知音 梁上君子 王昭君 江南橘為江北枳 鄧哀王曹冲	今に生きる6編の 故事・逸話 を読み、幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養います。また、伝統と文化を尊重し、それをはぐくんできた我が国と郷土を愛するとともに、他国を尊重し、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養います。(第1号, 5号)	P8-19

3. 上記の記載事項以外に特に意を用いた点や特色

- ◎古文編・漢文編に分け、それぞれを主に2年・3年の2か年での使用に対応した二部構成としました。
- ◎第一部ではジャンル単元を取り基礎的内容を中心に、第二部ではより深い内容までを学習するという、学習段階に応じた教材編成となるよう配慮しました。
- ◎現代に通じる古典常識や基礎的な知識を深めるためのコラム「**古典の窓**」、参考作品を掲げて教材の読みを広げる「**古典の扉**」を置いて、興味をもって学習が進められるように配慮しました。
- ◎古文編の第一部では、基礎的な古典読解力を育てるために、古文の読解に必要な**文法事項**を系統立ててまとめました。
- ◎漢文編では、各教材の中で特に注意したい**句型**を抽出し、本文中に*を付すとともに、見開きページごとに示しました。また、巻末の資料編で基本句型を整理しました。
- ◎口絵・付録については、いずれの学年でも参考となる資料的価値の高いものを厳選し、さらに、古典への関心を深めるもの、「国語総合」での学習を振り返ることのできるものを加えました。
- ◎より多くの人に見やすい**カラーユニバーサルデザイン**に配慮し、色覚特性を踏まえた、**判読しやすい配色やレイアウト**、表示の工夫により、学びやすい紙面づくりに配慮しています。
- ◎教科書の印刷には**再生紙と植物油インキ**を使用し、**地球環境への影響を少なくする**ように配慮しています。

▼P17

動詞の活用

動詞の活用は、文法事項として整理し、本文に*を付すと同時に、見開きページごとに示しました。

動詞の活用は、文法事項として整理し、本文に*を付すと同時に、見開きページごとに示しました。

動詞の活用は、文法事項として整理し、本文に*を付すと同時に、見開きページごとに示しました。

▼P72

古典の窓

「**古典の窓**」として、参考作品を掲げて教材の読みを広げる「**古典の扉**」を置いて、興味をもって学習が進められるように配慮しました。

「**古典の窓**」として、参考作品を掲げて教材の読みを広げる「**古典の扉**」を置いて、興味をもって学習が進められるように配慮しました。

「**古典の窓**」として、参考作品を掲げて教材の読みを広げる「**古典の扉**」を置いて、興味をもって学習が進められるように配慮しました。

▼P229

古典の扉

「**古典の扉**」として、参考作品を掲げて教材の読みを広げる「**古典の扉**」を置いて、興味をもって学習が進められるように配慮しました。

「**古典の扉**」として、参考作品を掲げて教材の読みを広げる「**古典の扉**」を置いて、興味をもって学習が進められるように配慮しました。

「**古典の扉**」として、参考作品を掲げて教材の読みを広げる「**古典の扉**」を置いて、興味をもって学習が進められるように配慮しました。

【単語】

単語の整理と、本文に*を付すと同時に、見開きページごとに示しました。

単語の整理と、本文に*を付すと同時に、見開きページごとに示しました。

単語の整理と、本文に*を付すと同時に、見開きページごとに示しました。

【文法】

文法事項の整理と、本文に*を付すと同時に、見開きページごとに示しました。

文法事項の整理と、本文に*を付すと同時に、見開きページごとに示しました。

文法事項の整理と、本文に*を付すと同時に、見開きページごとに示しました。

▲P49

▲P113

編 修 趣 意 書

(学習指導要領との対照表, 配当授業時数表)

受理番号	学 校	教 科	種 目	学 年
28-15	高等学校	国語科	古典 B	
発行者の 番号・略称	教科書の 記号・番号	教 科 書 名		
17 教出	古 B 336 古 B 337	精選古典 B 古文編 精選古典 B 漢文編		

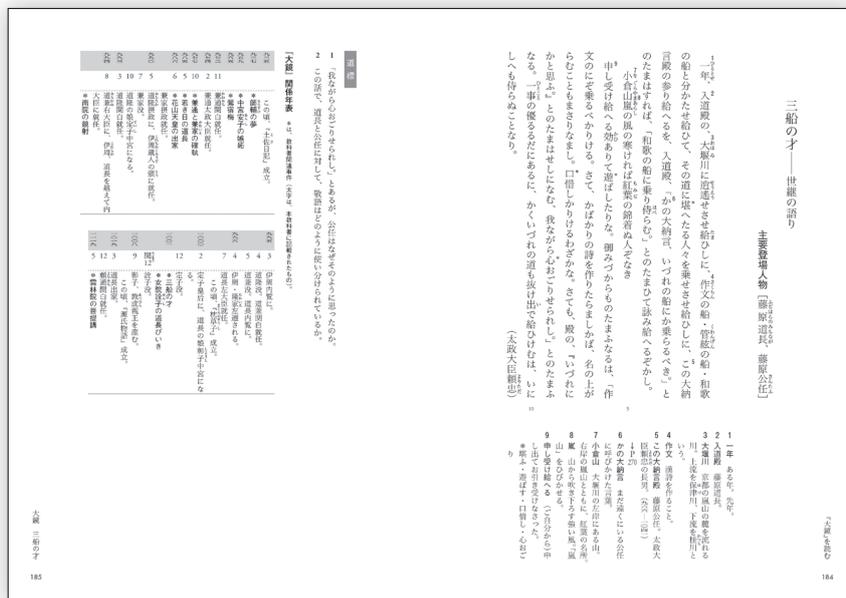
1. 編修上特に意を用いた点や特色

編修の基本方針

古典としての古文と漢文を読む能力を養うとともに、わが国の文化・伝統の中に身をおき、古典の価値を再発見し、新しい価値を加えて次の世代へと読み継いでいくこと、また、生涯にわたって古典に親しむ読書人を育成することを願いました。

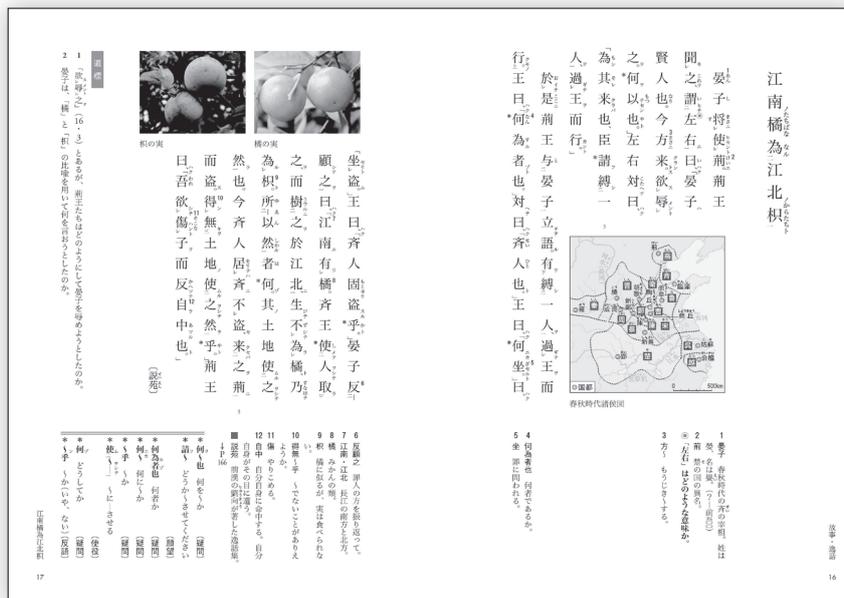
教科書の構成

- ◎古文編・漢文編に分け、2年・3年の**2か年での使用**に対応した二部構成をとりました。
- ◎第一部では**ジャンル単元**をとり基礎的内容を中心に、第二部ではより深い内容までを学習するという、学習段階に応じた教材編成となるよう配慮しました。
- ◎教材末には「**学習の手引き**」を置き、脚注欄に掲げた読解注と合わせて本文を読解するための設問や学習活動を示しました。なお、漢文編第一部の漢詩単元では、それぞれの詩についての設問を脚注欄に■印で示しました。



▲P184-185

- ◎現代に通じる古典常識や基礎的な知識を深めるためのコラム「**古典の窓**」、参考作品を掲げて教材の読みを広げる「**古典の扉**」を適宜置いて、興味をもって学習が進められるように配慮しました。
- ◎古文編の第一部では、基礎的な古典読解力を育てるために、古文の読解に必要な**文法事項**を系統立ててまとめました。
- ◎漢文編では、各教材の中で特に注意したい句型を抽出し、本文中に*を付すとともに、見開きページごとに示しました。また、巻末の資料編で基本句型を整理しました。
- ◎口絵・付録については、いずれの学年でも参考となる資料的価値の高いものを厳選し、さらに、古典への関心を深めるもの、「国語総合」での学習を振り返ることのできるものを加えました。
- ◎より多くの人に見やすい**カラーユニバーサルデザインに配慮**し、色覚特性をふまえた、**判読しやすい配色やレイアウト**、**表示の工夫**により、学びやすい紙面づくりに配慮しています。
- ◎教科書の印刷には**再生紙と植物油インキ**を使用し、**地球環境への影響を少なくする**ように配慮しています。



▲P16-17

2. 対照表

〈 〉内は小教材

図書構成・内容	学習指導要領の内容	該当箇所	配当時数
(古文編) 第一部			
説話 児の知恵 成方と名笛 〈盗賊〉	能は歌詠み 袴垂と保昌 〈動詞の活用〉	2(1)アイ P8-17	
随筆 徒然草 家居のつきづきしく 人の亡きあとばかり	明日香川の淵瀬 九月二十日の頃	2(1)アイウ P18-24	
方丈記 行く川の流れ 〈無常観〉	養和の飢饉 日野山の閑居	2(1)アイウ P25-31	
枕草子 春はあけぼの 〈除目〉 〈形容詞・形容動詞の活用〉	すさまじきもの 中納言参り給ひて	2(1)アイウ 2(2)ウ P32-39 P32	

図書の構成・内容		学習指導要領の内容	該当箇所	配当時数
歌物語				
伊勢物語	初冠 関守 狩りの使ひ	〈垣間見〉 梓弓 目離れせぬ雪	2(1)アイエ	P40-49
大和物語	峰のもみぢ葉 姨捨山	後に会はむと 〈助動詞のはたらき(1)〉	2(1)アイエ	P50-55
日記				
土佐日記	阿倍仲麻呂の歌	黒鳥のもと	2(1)アイエ	P56-58
更級日記	東路の道の果て 継母との別れ 〈『源氏物語』の成立〉 〈古典文学に描かれた猫〉 〈助動詞のはたらき(2)〉	竹芝寺 『源氏』の五十余巻 をかしげなる猫 後の頼み	2(1)アイエ	P59-75
作り物語				
竹取物語	蓬萊の玉の枝		2(1)アイウ	P76-80
源氏物語	光源氏の誕生	若紫との出会ひ	2(1)アイウオ	P81-87
堤中納言物語	虫愛づる姫君	〈助詞のはたらき〉	2(1)アイウ	P88-91
和歌と歌謡				
王朝の歌			2(1)ウエ	P92-95
梁塵秘抄	舞へ舞へ蝸牛		2(1)ウエ	P96-97
歴史物語				
大鏡	雲林院の菩提講 南院の競射	花山天皇の出家 鶯宿梅	2(1)アイエ	P98-107
増鏡	宮内卿和歌のほまれ 新島守	鎧の袖 〈敬語法〉	2(1)アイエ	P108-113
軍記物語				
平家物語	忠度都落ち	能登殿最期	2(1)イウエ	P114-120
建礼門院右京大夫集	面影ばかり	〈紛らわしい語の識別〉	2(1)イウエ	P121-125
上代の文学				
古事記	黄泉つひら坂 〈桃の力〉		2(1)イエ	P126-129
万葉の歌			2(1)イウ	P130-133
近世の文学				
去来抄	行く春を	岩鼻や	2(1)イウ	P134-144
銀河の序		〈連歌から俳諧へ〉		
雨月物語	菊花の約	〈近世小説〉		
(古文編) 第二部				
『枕草子』を読む				
宮に初めて参りたる頃 御方々、君達、上人など 『古今』の草子を 二月つごもり頃に この草子、目に見え、心に思ふことを 〈琴と笛〉	〈宮廷女房〉 無名といふ琵琶の御琴を 大納言殿参り給ひて 殿などのおはしまさで後	2(1)ウエオ	P146-167	
		2(2)エ	P166-167	
『大鏡』を読む				
道真左遷 師輔の夢 中宮安子の嫉妬 若き日の道長 三船の才	兼通と兼家の確執 女院詮子の道長びいき	2(1)ウエオ	P168-185	
『日記』を読む				
蜻蛉日記	嘆きつつ	鷹を放つ	2(1)ウエ	P186-199
紫式部日記	若宮誕生	日本紀の御局		
和泉式部日記	帥の宮からの便り	帥の宮の訪れ		
讃岐典侍日記	しるしの箱			

図書の内容	学習指導要領の内容	該当箇所	配当時数
『源氏物語』を読む ——光源氏と女君—— 藤壺の宮の入内 夕顔の死 身のほどを知る空蟬 朧月夜との出会い 葵の上に取り憑く物の怪 明石の君の苦悩 女三の宮の降嫁 紫の上の死 〈古典の窓 女君評〉	2(1)ウエ 2(2)イ	P200-229 P229	
評論を読む 古今和歌集仮名序 やまと歌 六歌仙評 俊頼髓脳 歌の、八つの病の中に 無名抄 俊成自讃歌のこと 毎月抄 心と言葉 正徹物語 一字の違ひ 三冊子 師の風雅 難波土産 虚実皮膜の論 源氏物語玉の小櫛 もののあはれ 玉勝間 兼好法師への批判 〈古典の窓 花は盛りには〉	2(1)ウエオ 2(2)イ	P230-250 P250	
(漢文編) 第一部			
故事・逸話 漱石枕流 断腸 画竜点睛 知音 梁上君子 王昭君 江南橋為江北枳 鄧哀王曹冲	2(1)アイオ 2(2)ア	P8-19	
漢詩 近体詩 鹿柴 秋浦歌 秋風引 望廬山瀑布 楓橋夜泊 涼州詞 芙蓉楼送辛渐 月夜 除夜寄弟妹 黄鶴楼 登高 古体詩 桃夭 行行重行行 飲酒 売炭翁 苦宮市也	2(1)アウエオ 2(2)ウ 2(1)アウエオ 2(2)ウ	P20-28 P29-33	
史記 項羽と劉邦 若き日の両雄 鴻門の会 四面楚歌 項王の最期 〈司馬遷と『史記』〉	2(1)アイウエオ 2(2)ウ	P34-51	
文 春夜宴桃李園序 漁父辞 桃花源記	2(1)アイウオ 2(2)ウ	P52-59	
思想 論語 孟子 不忍人之心 荀子 人之性悪 老子 小国寡民 三十輻共一轂 莊子 渾沌 劇足而墊之 韓非子 侵官之害	2(1)アイウエオ 2(2)ウエ	P60-73	
小説 売鬼 人面桃花	2(1)アイオ 2(2)ウ	P74-79	
日本の漢詩文 冬夜読書 桂林莊雜詠示諸生 送夏目漱石之伊予 題白画 信玄と謙信 題不識庵擊機山図 敵に塩を送る	2(1)アイオ 2(2)イウエ	P80-84	

